

第 113 回 学長定例記者会見

日時：令和元年 9 月 25 日（水）10：30～11：00

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟 2 階 2F 会議室

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 新たなモビリティサービス実証実験開始
ー 広島大学～サイエンスパーク～東広島駅をつなぐ『広島大学循環バス』
運行開始 ー
2. 広島大学「地域の元気応援プロジェクト」採択プロジェクトを決定
しました

【お知らせ】

1. 駐ペルー共和国日本国特命全権大使 土屋 定之 氏による講演会を開催
(第5回広島大学ピース・レクチャー・マラソン)、名誉博士の称号を授与(10/4)
2. 『相乗型豪雨災害』住民・学者・行政が振り返る
広島大学防災・減災研究センター 1 周年記念オープンディスカッション
を開催します (9/30)
3. 広島大学タマチラボ「“ゲノム編集”で未来社会を拓く」の第 2 回
「ゲノム編集食品について考える」を開催します (10/23)
4. 文部科学省教育関係共同利用拠点に「瀬戸内圏フィールド科学教育研究
センター西条ステーション（農場）」が再々認定されました
5. 国立サン・マルコス大学および広島大学との共催フォーラムを開催、
広島型体育授業研究がペルーで全国展開

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和元年 10 月下旬

場所： 広島大学 霞キャンパス

令和元年 9 月 25 日

新たなモビリティサービス実証実験開始 ー広島大学～サイエンスパーク～東広島駅をつなぐ 『広島大学循環バス』運行開始ー

10 月 1 日、広島大学東広島キャンパスから、広島中央サイエンスパークを経由して東広島駅までをむすぶ『広島大学循環バス』の運行を開始します。

この事業は、広島大学周辺の交通問題の解決と、将来の自動運転社会の実現を見据えたデータ収集を目的として、東広島市が MONET Technologies 株式会社と連携して実施する実証実験です。

運行には、広島大学からゆめタウン学園店、広島中央サイエンスパーク、フジグラン東広島、東広島駅を経由して、本学に戻ってくる「定時定路線」と、スマートフォンの専用アプリでバスを予約する「デマンド」の 2 種類があり、貸し切りバス 2 台（定員 13 人）が運行します。

これまで、広島大学周辺の交通アクセスに関しては、東広島キャンパスと広島中央サイエンスパーク、東広島駅との間のアクセスが課題となっていました。

このたびの循環バスの運行により、東広島キャンパス周辺の生活環境が向上するだけでなく、研究機関を結ぶ利便性が高まることにより、世界的研究拠点の形成に向けた広島中央サイエンスパークとの連携強化がさらに推進できます。

今回の実証実験により、本学の構成員や本学への訪問客だけでなく、地域住民の潜在的なニーズを掘り起こし、広島大学周辺の定時定路線の拡充につながることを期待できます。

【お問い合わせ先】

社会産学連携室 社会産学連携担当 三戸
TEL：082-424-5871

◎ 定時定路線運行…運行ダイヤ（平日のみ）

東広島駅	08:30	09:30	11:25	12:40	13:40	15:20	16:40
産総研前	08:39	09:37	11:32	12:47	13:47	15:29	16:49
中国電力前	08:40	09:38	11:33	12:48	13:48	15:30	16:50
職員住宅	08:43	09:41	11:36	12:51	13:51	15:33	16:53
大学会館前	08:46	09:44	11:39	12:54	13:54	15:36	16:56
広大西口	08:47	09:45	11:40	12:55	13:55	15:37	16:57
FM東広島前	08:49	09:47	11:42	12:57	13:57	15:39	16:59
ゆめタウン学園前	08:51	09:49	11:44	12:59	13:59	15:41	17:01
職員住宅	08:56	09:53	11:48	13:03	14:03	15:46	17:06
中国電力前	08:59	09:56	11:51	13:06	14:06	15:49	17:09
産総研前	09:00	09:57	11:52	13:07	14:07	15:50	17:10
フジグラン前	09:05	10:02	11:57	13:12	14:12	15:55	17:15
東広島駅	09:15	10:10	12:05	13:20	14:20	16:05	17:25

◎ デマンド運行…MONET アプリから予約が必要（平日のみ）

大学周辺バス停



◎バス停名

- A 大学会館前
- B 広大西口
- C デマンド田口
- D デマンド下見
- E ゆめタウン学園店前
- F 池ノ上学生宿舎
- G 中国電力前
- H 産総研前
- I 酒類総合研究所前
- J 国際プラザ
- K サイエンスパーク北
- L 職員住宅

大学構内バス停



- ◎ 構内運行は左周りのみ
- ◎ 乗車はバス停のみ
- ◎ 降車は指定区間内自由（フリー降車）
- ◎ 凡例
 - フリー降車可能区間
 - フリー降車禁止区間
 - バス停車位置

- ① MONET 予約アプリを取得
- ② アクセスコード「hirodai」を入力
- ③ 3日前から運行直前まで予約可能

詳細はQRコードから



【お問合せ先】
東広島市政策企画部政策推進監
☎082-420-0917

令和元年 9 月 25 日

広島大学「地域の元気応援プロジェクト」 採択プロジェクトを決定しました

広島大学は、今年度から「広島大学の元気応援プロジェクト」をスタートしました。

本プロジェクトは、学生・教員・地域団体の 3 者でチームを組んで、地域から提案があった地域課題の解決や地域活性化をめざす取り組みを、広島大学が支援するものです。

（助成額は、原則 30 万円まで、最高限度 50 万円 採択は 8 件以内）

3 者の出会いの場となるマッチングイベントを 8 月 9 日と 30 日の 2 回開催し、地域から 15 件の活動テーマのプレゼンテーションをいただきました。

マッチングイベントの効果もあり、このたびの地域の元気応援プロジェクトには 11 件の応募があり、8 件の採択が決定しました。

採択事業の概要は以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/ccc/ccc2/genki2019>

「広島大学公式ウェブサイト」→「地域・産学連携」→

「地域連携」→「繋ぐ」→「令和元年度」

採択を受けた事業は、10 月から来年 2 月までの 5 カ月間活動し、3 月にプロジェクト報告会で活動報告をしていただく予定です。

【お問い合わせ先】

社会産学連携室 社会産学連携グループ 三戸
TEL：082-424-5871

令和元年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」
採択プロジェクト一覧

項 番	テーマ	地域団体名	教員	
1	Sandankyo Nature Trail Project ～三段峡自然散策道プロジェクト (安芸太田町)	NPO 法人三段峡－ 太田川流域研究会	統合生命科 学研究科 教授	中坪孝之
2	中山間地域と大学を結び、世代を 超えた学びの拠点を作ろう (東広島市志和町志和堀)	つくれば工房	統合生命科 学研究科 准教授	彦坂 暁
3	久比地区の水利用等住環境に関す るサステイナビリティの確立のための 広島大学の瀬戸内拠点造り (呉市豊町～大崎下島久比地区)	一般社団法人まめな	総合科学研 究科 教授	小野寺真一
4	学生ワークショップによる公共空間 利活用の提案と実践 (呉市中通2丁目)	NPO 法人 SYL	工学研究科 教授	田中貴宏
5	音戸の瀬戸周辺地域の散策マップ 作成とマップを活用にした地域づくり 提案 (呉市音戸町)	NPO 法人地域力で 里山を再生する会	工学研究科 教授	田中貴宏
6	音戸ドリームアイランドカレッジフィー ルド (呉市音戸町)	NPO法人アースキュー ーブジャパン	総合科学部 国際共創学 科 講師	張 慶在
7	楽しゅう 飲みん茶い (三原市大和町～黒谷地区)	まほろばくろたに	文学研究科 准教授	伊藤奈保子
8	レモンの島瀬戸田，地域と環境にや さしく共生する島づくり(レモンのある 暮らしーレモンを生活の中に豊か に生かすー) (尾道市瀬戸田町)	せとだレモン祭実行 委員会	教育学研究科 准教授	富永美穂子

令和元年度 広島大学「地域の元気応援プロジェクト」採択プロジェクト一覧

項番	テーマ	地域団体名		教員		地域団体の概要
1	Sandankyo Nature Trail Project	特例認定NPO法人三段峡－太田川流域研究会(さんけん)	本プロジェクトは 特例認定NPO法人「三段峡－太田川流域研究会(さんけん)」と中坪孝之教授(統合生命科学研究科)およびそのゼミ生の三者が共同で行うもので、“三段峡野外博物館構想”の一環として、三段峡を自然や伝統文化を体験し学ぶことができるネイチャートレイル(自然散策道)として位置付けている。本プロジェクトでは、これまで積極的に対象とされてこなかった外国人観光客をメインターゲットとしており、適切な情報発信や環境整備、三段峡の豊かな自然と伝統文化の価値の発信や体験機会の提供を行う。 具体的には外国人観光客の利用しやすいように情報を整理したガイドブックの作成・配布に加えて、エコツアーを企画・実行する。これらの情報媒体や機会提供によって三段峡へのアクセスのハードルを下げるとともに、知名度の向上と都市部からの外国人観光客数の増加を目指す。また、地域住民にも三段峡の価値を再認識してもらい、持続的な地域発展に繋がる新たな中山間地域と都市部の共存関係モデルの構築を試みる。	統合生命科学研究科	中坪 孝之	私たちの暮らす広島県太田川の流域が、生物多様性と美しさが保たれる持続可能な社会を築くために、三段峡を中心とした活動フィールドを野外博物館と捉え、これからの自然と人の関わり方を考え場にします。フィールドの自然や歴史を調べ、伝え、100年先へこの環境を守る取り組みをミッションとしています。
2	中山間地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を作ろう	つくれば工房	志和堀の古民家図書室ほたる荘と、併設するものづくりスペースつくれば工房は、広大の学生、教職員、OBが中心となって開設・運営され、地域内外の様々な来訪者の交流の場となってきた。本プロジェクトは、ここをハブとして地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を作ることを目指す。そのために(1)IT/IoT技術を実践的に学べる環境の整備、(2)サイエンス&テクノロジー・ワークショップの開催、(3)子どもたちが集える/遊べる/学べるスペースづくり、(4)プロジェクトの活動の広報、を行う。学生・教員は、IT/IoT技術面の支援、ワークショップの企画と講師、リノベーション支援、広報活動支援、などを行う。このプロジェクトを通して、志和に子どもがいきいきと遊び/学べる子育てがしやすい環境、すべての世代が自主的に学び成長できる環境を整えることを目指す。	統合生命科学研究科	彦坂 暁	ものづくりを志向する人たちが集い、道具やノウハウを共有する場を自主運営することを目指す。活動拠点は2011年呉市で発足。2013年広島市に移転。2018年東広島市志和町志和堀 ほたる荘内にに移転。この間「つくればFaire」主催。
3	久比地区の水利用等住環境に関するサステナビリティの確立のための広島大学の瀬戸内拠点造り	一般社団法人まめな	瀬戸内海の大崎下島久比地区の水資源、井戸水の研究を皮切りに広島大学の学生が久比に集いやすい環境を整備し、これからの未来の地域の形住環境に関する持続可能なあり方のモデルケースを世界に発信する。	総合科学研究科	小野寺 真一	久比に1)相互扶助コミュニティの創出、2)未来農業の探求・実践、3)前記のテーマをサポートするテクノロジー開発を通して「介護のない世界」の実現を目指し、さらにこれからのライフスタイルを提案実践していきます。参加人数:25名(2019. 8現在)
4	学生ワークショップによる公共空間利活用の提案と実践	NPO法人SYL	呉市の中通2丁目は、老舗と新しい店舗がバランスよく共生するエリアで、古くより新規創業に人気の地区である。しかし現在は、様々な地域課題が顕在化しつつあり、これらに対して、当該エリアでは、地区住民の合意を形成しつつ、様々なイベントを開催するなど、自助努力を重ねてきた。このような状況を受け、本年度は、呉市と連携し、公共空間の利活用による、持続可能な賑わい創出の形を探る、実証実験が行われている。 そこで、本プロジェクトでは、学生が中心となり、ワークショップを開催し、賑わい創出のためのアイデア(ハード、ソフト)の整理と提案を行う。また、前述の実証実験にあわせて、そのアイデアを中通2丁目で実際に実践することにより、その効果の評価までを行うことを目的とする。なお、提案責任者の研究室では、これまでも地域で学生ワークショップを行い、まちづくり提案・実践を行ってきた経験があり、今回もそのノウハウを活用する。	工学研究科	田中 貴宏	「古きを生かし、未来を紡ぐ」を理念に、呉市中央地区に特化したまちづくりに関する事業を行うNPO法人SYL(エスワイエル)は、デザイナー、大工、料理人など、職業の枠を超えた11人で構成されており、主たる事業として、にぎわい創出、公共空間の利活用提案を目的としたイベント催事を実施しています。また民間主体による創業支援にも鋭意取り組み中。
5	音戸の瀬戸周辺地域の散策マップ作成とマップを活用にした地域づくり提案	特定非営利活動法人地域力で里山を再生する会	音戸の瀬戸周辺地域は、歴史的な資源を有するとともに、近年では、新たな地域資源も整備され、また、新しくこの地で活動を始めたアーティスト等も増え始めている。このような社会的背景から、地域雑誌でも紹介され、観光客も増えつつある。しかし、既存の散策マップには、近年の状況が反映されていない。 そこで本プロジェクトでは、学生が中心となり、地域の人々と連携し、新たな地域資源発掘を行いつつ、令和版の散策マップを作成することを目的とする。なお、この散策マップは、紙媒体で作成すると同時に、デジタル版も作成することとする。また、マップ作成後は、そのマップを活用し、地域づくり提案を作成することとする。なお、提案責任者の研究室では、これまでも地域の資源マップを作成した経験があり、今回もそのノウハウを活用する。	工学研究科	田中 貴宏	この法人は、荒廃した農地や山林および河川を、昔ながらの「環境にやさしい循環型の里山」に戻す活動を通して、農業が育んでき循環型社会の大切さを再認識し、更なる地域コミュニティの活性化に寄与することを目的とする。また、持続可能な営みを再構築し子供たちの郷土愛を育み、地域住民の自己肯定感を上げることで、外部から見ても魅力あふれるコミュニティ作りができるよう活動することを目的とする。

6	音戸ドリームアイランドカレッジ フィールド	NPO法人アースキューブジャ パン	音戸ドリームアイランドカレッジフィールドは、海外や全国からクリエイターが訪れ、夢を具現化する地域人材を育成と、地域の住民の方と交流する事で、現場で気づきを得て、島の魅力を発見し世界に発信したり、課題を解決する若手人材を育成する。	総合科学部国 際共創学科	張 慶在	この法人は、未来の子どもたちに残したい地域づくりのためにナリワイ作りやゲストハウスを日本に広めることを通し、地域で豊かに暮らすモデルケースの創出を目的としています。ゲストハウス開業合宿やナリワイ作り合宿を全国で展開し、夢をかなえる120人を超える拠点が全国に広がっています。また、行政と連携して若手の人材育成や地域活性化のアドバイスも行っています。
7	楽しゅう 飲みん茶い	まほろばくろたに	三原市黒谷は、江戸時代、浅野藩へ献上した茶を栽培していた名産地である。一度途絶えた栽培を平成24年から有志で復活させた。年々作付け面積も増え、最近ではワークショップなどで「煎茶の手もみ体験」も開催している。この広島の煎茶をより多くの方々に、楽しんでいただくために広島の工芸品でお茶を楽しく頂く空間を演出することを企画した。即ち三原のだるまを容器とし、茶さじは戸河内割物、菓子入れを戸河内挽物、湯飲みと急須はお砂焼、テーブルセンターは備後緋、お盆と茶たくは宮島細工、円座は備後蘭草、お菓子はもみじ饅頭。それらを丈夫な尾道帆布(尾道柿洪)のバッグに入れて一式で販売を行う。個別販売も可能する。まずは5月、①三原のだるまの茶入れ制作、②手もみ煎茶の2つの体験を企画した。「楽しゅう飲みん茶い」の第一弾である。	文学研究科	伊藤 奈保子	黒谷地域における伝統文化・産業・史跡等を掘り起こし、環境整備等により、地域のよさを再認識するとともに、他地域との交流を深め、地域の活性化を図る。これまで手もみ煎茶づくり、ホテル観察会、浅野永清公を偲ぶ灯りまつり等を行ってきた。今年度は新たに地域の自然や歴史を生かした里山ウォーキングの実施に向けて準備を進めている。平成24年設立 構成員15名 賛助会員数名
8	レモンの島瀬戸田、地域と環境にやさしく共生する島づくり (レモンのある暮らしーレモンを生活の中に豊かに生かすー)	せとだレモン祭実行委員会	レモン生産量日本一で国産レモン発祥の地である尾道市生口島瀬戸田町は広島県内外においてあまり知られてはおらず、地域住民においてもレモンをはじめとし、瀬戸田町のアピールポイントに気がついていない人が多い。そこで、地域住民の気づかない瀬戸田町の素晴らしさを、県外者を含めた若い世代とともにとらえ、発信し、活性化につなげていく方法を日本一の生産量を誇るレモンを核に検討する。	教育学研究科	富永 美穂子	レモン生産量日本一で、国産レモン発祥の地である、尾道市生口島瀬戸田町が一般的にはあまり知られておらず、市外県外の人に、もっとPRしていこうという思いから、せとだレモン祭が始まった。せとだレモン祭では、レモンを使った競技やレモンに関する飲食・物販・音楽などを実施。第3回せとだレモン祭の来場者数は、15,000人だった。



Sandankyo Nature Trail Project

広島大学大学院 統合生命科学研究科 中坪研究室

共同団体：特例認定NPO法人 三段峡—太田川流域研究会（さんけん）

目的

- ①三段峡及び周辺地域の活性化・物見遊山から**学びと体験の場へ**（三段峡野外博物館構想）
- ②アクセス環境の整備と、豊かな自然と伝統文化のアピールによる**外国人観光客の増加**

① 外国人観光客に向けた情報の発信

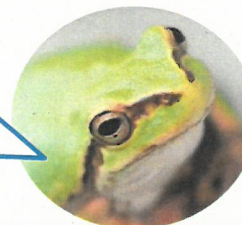
適切な情報提供（装備・交通手段・施設利用 etc.）
→ 外国人観光客のアクセスを容易に！

② 自然観察ガイドブックの作成

三段峡ならではの見どころに加え、歴史や文化的背景を紹介
→ 体験と学びの場へ！

③ エコツアーの作成・実施

さんけんと共同で外国人観光客を対象としたエコツアーを実施
→ さらなる魅力の発信 & 地域住民の参画



将来の展望

- ・自然観察ガイドブックの一般配布
 - ・エコツアープログラムの持続的な運用
 - ・成果物と作成過程のデータベース化
- 外国人観光客の増加 都市部から山間地域への人・モノの流れを創出
地域の活性化 地域住民参画型の環境に配慮したエコツアー
多様なニーズに合わせた情報提供や新規のツアープログラム作成



中山間地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を作ろう



ほたる荘/つくれば工房の活動 × 地域の元気応援プロジェクト → 学びの拠点を作り、活用する

□ 広大関係者が設立・運営に関わってきた
古民家リノベーション、蔵リノベーション、
図書室、遊び場、ワークショップ etc.

□ ものづくりを楽しむ場
3Dプリンタ、ペーパーカッター、電子工作、
プログラミング、木工、機織り etc.

□ 多様な人たちの交流の場
スタッフ、地元の人、U/Iターンの移住者、
地域外からの来訪者、子供と親、シニア、
学生、不登校児、マニアックな人たち etc.

□ IT/IoTを実践的に学ぶ環境の整備
Wi-Fi設備の設置、Webサイトの開設、
IT/IoT技術を用いた学ぶ素材の開発

□ 作ることで学ぶ:ワークショップの開催
子供も含む全世代向けものづくりWS

□ 子供が集い/遊び/学べる空間作り
ほたる荘にマンガ/絵本図書室を設置

□ 活動を広報し仲間を増やす
SNSに加え、様々な手段を用いた広報

□ 学びの活動の継続
日常的なものづくり活動、WS等のイベント

□ 志和の魅力を発信し、人を呼び込む
子育て環境の整備、志和のアピール、
関係人口の増加、移住者の呼び込み

□ 学生の学びの場、大学の社会貢献の場
学生が地域の人たちと共に活動し、学び、
成長できる場として活用
ものづくりを通して子供たちの理系離れに
歯止めをかける場としても活用

久比地区の水利用に関するサステナビリティの確立

大崎下島
久比

2019年3月一般社団法人設立
「じぶんたちの暮らしを手にとり戻す」
をテーマにまめなプロジェクト進行中



step1

産学連携で久比に点在している、現在は使われていない井戸の水質分析・水脈を調査

step2

集落の井戸・湧き水を改善、
生物多様性豊かな久比の実現

step3

子供が安心して遊べ、蜚が育つ川の整備

step5

世界中の環境意識の高い人が久比を訪れ滞在し久比に関わる

step4

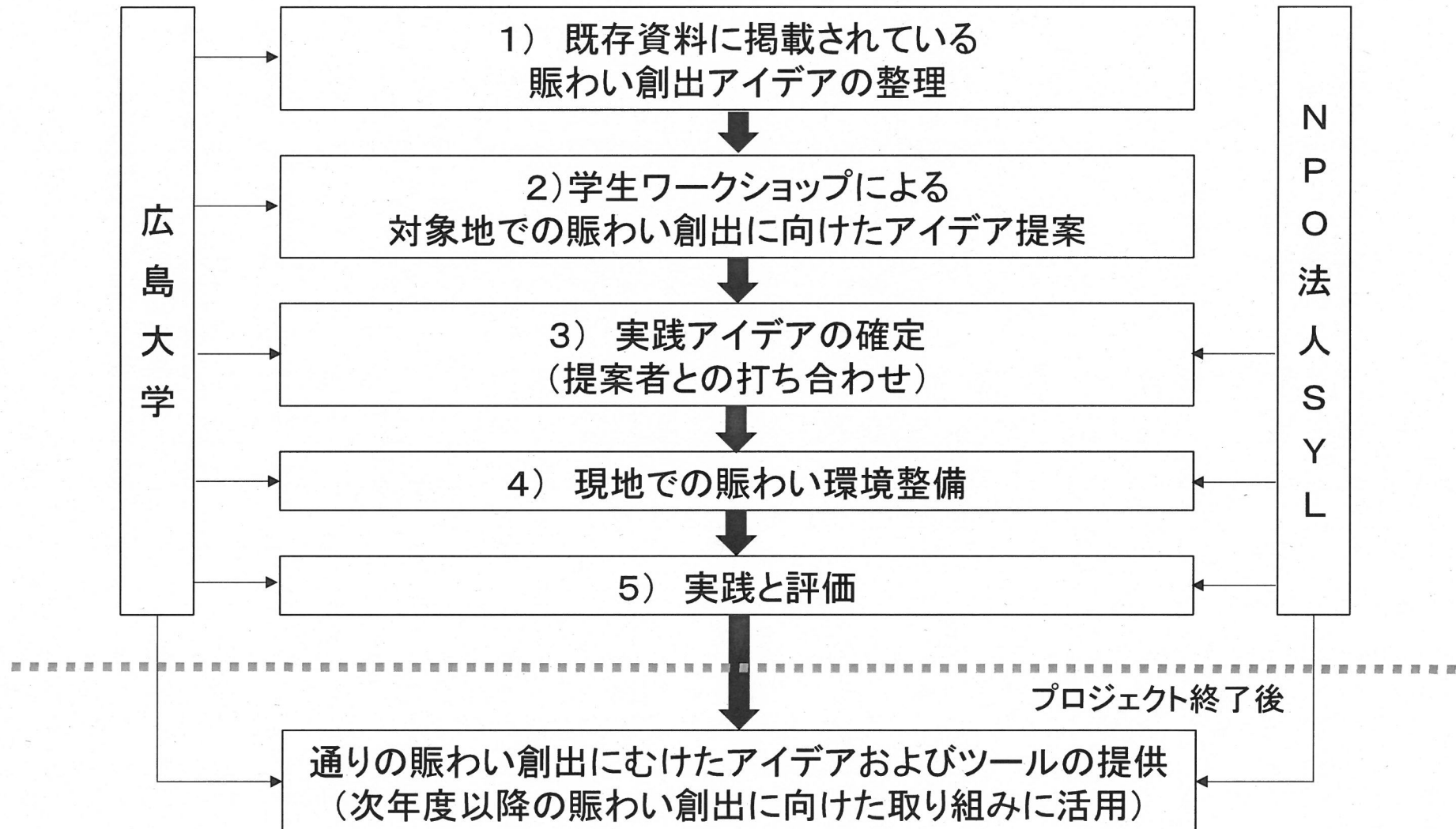
豪雨・地震など緊急災害時の代替水資源として井戸を活用

Step6

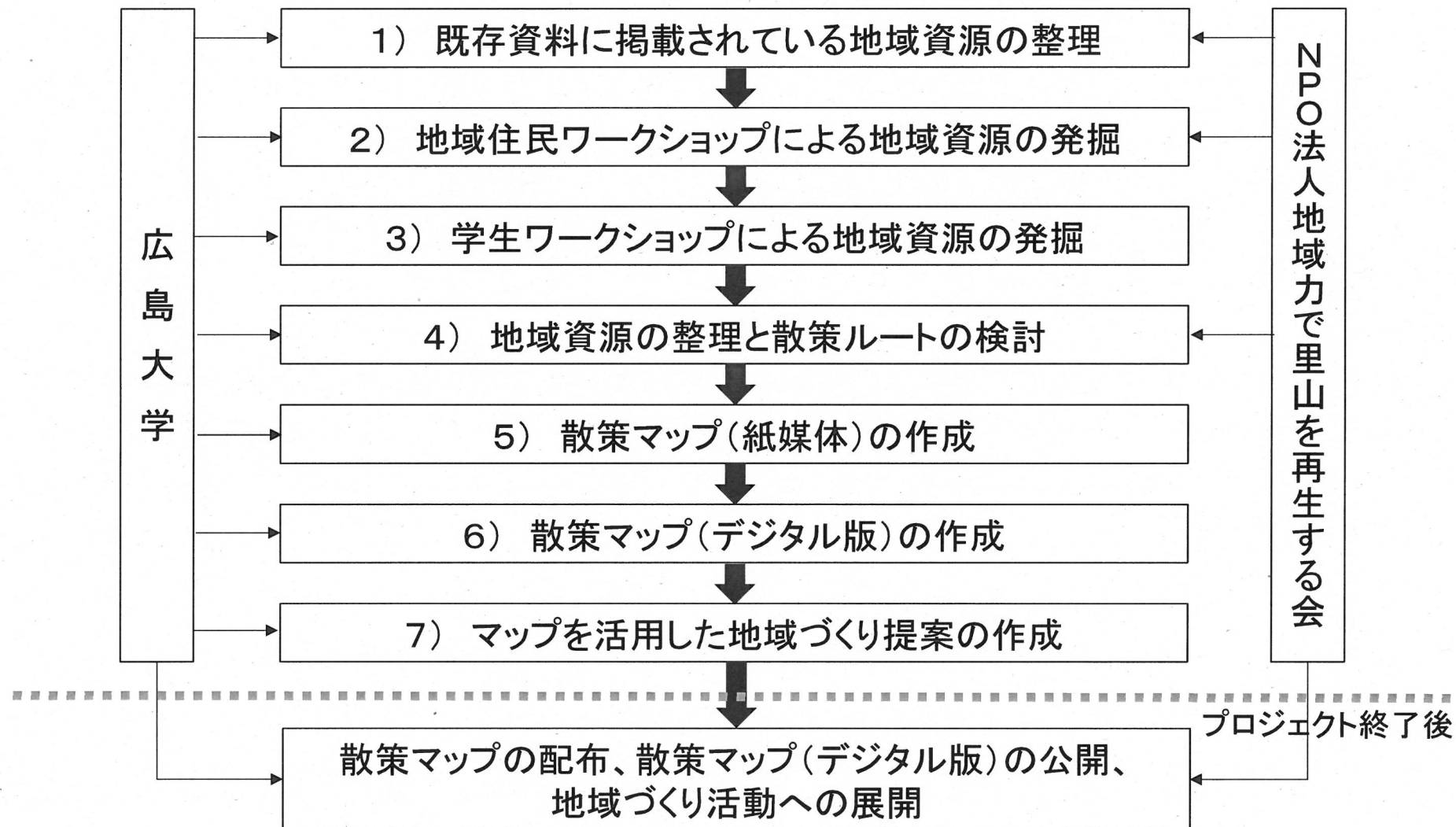
久比に広島大学の学生と地域がつながる持続可能な社会の在り方について研究する拠点を つくる



学生ワークショップによる 公共空間利活用の提案と実践



音戸の瀬戸周辺地域の散策マップ作成と マップを活用にした地域づくり提案



令和元年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」

By NPO法人 アースキューブジャパン

◆提案テーマ

『日本初!! 夢をかなえる島の学校「音戸ドリームアイランドカレッジフィールド」の立ち上げ』
世界からクリエイターなどが集まり「ドリームアイランドカレッジフィールド」を世界に発信することで、
夢を具現化できる次世代人材と、島の課題や問題を解決する若手人材を育成する

◆課題

島には、魅力的な資源がたくさんある一方で、それを生かせる若手のプレーヤーが不足している。また、豪雨災害からの復興も急務。

◆内容



◆活動による効果

- ・夢を具現化する方法の修得
- ・夢をかなえる拠点づくり
- ・自分たちの理想のまちは自分でつくる学び
- ・若者の自己肯定感の醸成
- ・ワクワクした暮らしを支える生業の創出
- ・交流人口の増加
- ・空家・空き店舗の利活用
- ・観光客の増加
- ・若者の想いを具現化し、世界に島の魅力を発信

「楽しゅう
飲みん茶い」

まほろば黒谷
(三原市大和町下草井)

- ・手もみ煎茶の体験
- ・三原のだるま
オリジナル茶入れ制作

「鷹の爪」江戸時代浅野藩に献上した銘茶
広島伝統工芸で楽しむ煎茶の時間

・茶樹園整備・手もみ煎茶技術習得

献上茶復活・お茶を彩る広島工芸



- ・浅野藩子孫の会との交流も！
- ・三原だるま茶入れ・もみじ饅頭

— 続々登場 —

備後畳表円座・お砂焼き茶器

戸河内挽物菓子入・宮島細工茶たく

戸河内剥物茶さじ・尾道帆布袋 ほか

レモン生産量日本一の島 生口島(瀬戸田町) ～地域と環境にやさしく共生する島づくり～



参加者の感想・
要望を収集
→リピーターに
つなげる

企画・提案運営参加

- ・レモンスタンプラリー
- ・女性をターゲットに柑橘類の香りブースの設置
- ・日本の柑橘類大集合ブースの設置 など

学生による
SNSの発信

せとだ
レモン祭

レモンをその
まま活かす

瀬戸田町の
魅力を発信する方法

レモングッズの企画

- ・伝統的レモン料理・新メニュー企画発信
- ・レモンが作りだす風景 など

- ・ドライフルーツを加工したアクセサリー
- ・入浴剤
- ・フレグランス など

【島民との連携】 【新たな資源の発見】 【にぎわい創出】 につなげる！

令和元年 9 月 25 日

駐ペルー共和国日本国特命全権大使 土屋 定之 氏による講演会を開催（第5回広島大学ピース・レクチャー・マラソン）、名誉博士の称号を授与

第5回広島大学ピース・レクチャー・マラソンとして、駐ペルー共和国日本国特命全権大使（元 文部科学事務次官） 土屋 定之 氏の講演会を開催します。また、同氏に対して、広島大学から名誉博士の称号を授与しますのでお知らせします。

記

日 時： 令和元年10月4日（金）
11：00～12：00 講演会
12：00～12：20 名誉博士号 称号授与式

会 場： 東広島キャンパス 学士会館2階レセプションホール

講演題目： 「日系人が経験した戦争と平和 en el Perú」

被授与者・講師： 駐ペルー共和国日本国特命全権大使 土屋 定之 氏

使用言語： 日本語（英語による同時通訳あり）

講演対象者： 本学教職員、学生、一般

【ピース・レクチャー・マラソンについて】

原子爆弾によって破壊された広島が緑豊かな国際都市として発展する中、苦難の歴史を忘れず平和の大切さを語り継いでいくために、各国政府代表者や在京大使・在外の日本国大使の方々に平和をテーマにご講演いただくもので、この度は第5回目の開催となります。

（参 考）

- 第1回(H30.10.10) エジプト高等教育大臣 カリッド アブ デル ガッファル氏
- 第2回(H30.10.11) リトアニア共和国首相 サリユス・スクヴァイルニス氏
- 第3回(H30.12. 1) 駐日トルコ共和国特命全権大使 ハサ ムラット エルズン氏
- 第4回(H31. 1.28) 駐日欧州連合部代表・駐日欧州連合大使 パトリシア フォア氏

【お問い合わせ先】

国際室国際部国際交流グループ 中家
Tel：082-424-6046 FAX：082-424-6179
E-mail：kokusai-group@office.hiroshima-u.ac.jp

第5回 ピース・レクチャー・マラソン



駐ペルー日本国大使 土屋 定之氏

日系人が経験した戦争と平和 en el Perú

広島大学は、平和を希求してチャレンジする国際的教養人を輩出し、多様性を育む自由で平和な国際社会を築く役割を果たします。ピース・レクチャー・マラソンは、原子爆弾によって破壊された広島が緑豊かな国際都市として発展する中、苦難の歴史を忘れず平和の大切さを語り継いでいくために、各国政府代表者や在京大使・在外の日本国大使の方々に平和をテーマにご講演いただくものです。



土屋 定之
駐ペルー日本国大使

越智 光夫
広島大学長

1953年広島県出身。1979年に北海道大学大学院環境科学研究科修士課程を修了し、同年、科学技術庁(当時)に入庁。以降、文部科学省、文化庁等において要職を務め、2014年に文部科学審議官、2015年に文部科学事務次官を歴任した。2016年6月からは文部科学省の顧問。2018年1月駐ペルー共和国特命全権大使に就任。

2019年10月4日(金) 11:00-12:00

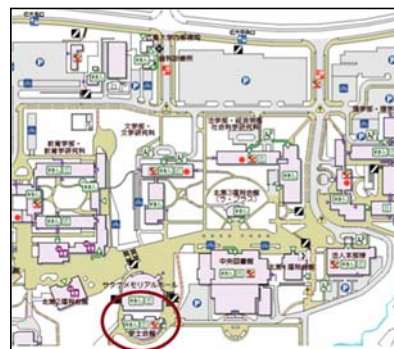
場 所：広島大学学士会館2階
レセプションホール
(TV会議：霞基礎講義棟2階医学部会議室)

使用言語：日本語（英語による同時通訳あり）

入 場：無料

申 込：以下URLより申込【10月2日(水)まで】

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=hd1SPTjezE66JyMl3QPr9fPn8Frhyc1BtrOCQjRYSjNUN0tYNzI2VTBUWUjXVjJRUTRSVTg1TVEyTi4u>



主催：広島大学

問合せ先：

広島大学国際室国際部国際交流グループ

TEL: 082-424-6046 / FAX: 082-424-6179

E-mail: kokusai-group@office.hiroshima-u.ac.jp



令和元年 9 月 25 日

『相乗型豪雨災害』住民・学者・行政が振り返る

広島大学防災・減災研究センター 1 周年記念オープンディスカッション
を開催します

平成 30 年 7 月の豪雨災害から 1 年以上が経過しました。

私達はこれまで、『相乗型豪雨災害』と呼ぶ新たな形態の災害とそこからの復興の過程で、多くの教訓や学術的な知見を学んできました。

防災・減災研究センターが平成 30 年 9 月 20 日設置され、このたび 1 年を迎えるにあたり、今後の災害に強いまちづくりにとって重要な 3 つのテーマについて、住民・学者・行政がそれぞれの視点から共に考えます。

日 時：9 月 30 日（月）13 時 30 分～17 時

場 所：広島大学東広島キャンパス 中央図書館ライブラリーホール

対象者：防災・減災研究センター研究者、自治体危機管理担当者、

自主防災組織、一般市民 ほか

※事前申込有（防災・減災研究センターのサイトから）

プログラム：

開会挨拶 理事・副学長（社会産学連携担当） 河原 能久

討議

テーマ 1：都市計画と防災（50 分）

コーディネーター：防災・減災研究センター 調査研究部門長 /
大学院国際協力研究科 教授 藤原 章正

テーマ 2：自助・共助のための防災教育（50 分）

コーディネーター：防災・減災研究センター センター長 土田 孝

テーマ 3：早期避難と避難所の課題（50 分）

コーディネーター：防災・減災研究センター情報管理・情報発信部門長 /
大学院総合科学研究科 教授 海堀 正博

閉会挨拶 防災・減災研究センター センター長 土田 孝

【お問い合わせ先】

社会産学連携室社会産学連携グループ 三戸

TEL：082-424-5871

E-mail：sangaku-renkei@ffice.hiroshima-u.ac.jp



『相乗型豪雨災害』 住民・学者・行政が振り返る



テーマ1
都市計画と防災

テーマ2
自助・共助のための
防災教育

テーマ3
早期避難と
避難所の課題

コーディネーター
藤原 章正
(国際協力研究科
教授)

コーディネーター
土田 孝
(防災・減災研究
センター長)

コーディネーター
海堀 正博
(総合科学研究科
教授)

日時 2019 年9 月30日 (月) 13時30分～17時

会場 東広島キャンパス中央図書館ライブラリーホール

主催 広島大学防災・減災研究センター

後援 公益社団法人砂防学会中四国支部、公益社団法人土木学会中国支部、
公益社団法人日本都市計画学会中国四国支部、広島県医師会

参加をご希望の方はセンターのウェブサイトの申込フォームからお申込みください。

広島大学防災・減災研究センター <https://www.hiroshima-u.ac.jp/hrrc>

【お問い合わせ先】広島大学防災・減災研究センター TEL:082-424-4312(平日9:00～16:00)

『相乗型豪雨災害』 住民・学者・行政が振り返る



広島大学防災・減災研究センター
Resilience Research Center
Hiroshima University

私達は平成30年7月の豪雨災害を踏まえ、同年9月20日、広島大学防災・減災研究センターを設置いたしました。これまで、『相乗型豪雨災害』と呼ぶ新たな形態の災害とそこからの復興の過程で、多くの教訓や学術的な知見を学んできました。

防災・減災研究センターが設置1年を迎えるにあたり、今後の災害に強いまちづくりにとって重要な3つのテーマについて、住民・学者・行政がそれぞれの視点から共に考えます。

プログラム

開会挨拶

理事・副学長(社会産学連携担当) 河原 能久

討論

テーマ1:都市計画と防災(50分)

コーディネーター:藤原 章正

防災・減災研究センター調査研究部門長/国際協力研究科 教授

発表者:総合科学研究科

教授

海堀 正博

防災・減災研究センター長

土田 孝

工学研究科

教授

田中 貴宏

討論参加者:広島県土木局土砂法指定推進担当課長

古川 信博

東広島市八本松住民自治協議会防災委員会委員長 牧野 美三夫

テーマ2:自助・共助のための防災教育(50分)

コーディネーター:土田 孝

防災・減災研究センター長

発表者:工学研究科

准教授

内田 龍彦

文学研究科

准教授

後藤 秀昭

東広島市消防局副署長

山中 勝司

討論参加者:広島市危機管理室防災予防課長

河本 秀明

防災・減災研究センター

特任教授

福田 直三

テーマ3:早期避難と避難所の課題(50分)

コーディネーター:海堀 正博

防災・減災研究センター情報管理・情報発信部門長/総合科学研究科 教授

発表者:大学病院

副病院長

大毛 宏喜

大学院総合科学研究科

教授

坂田 桐子

討論参加者:呉市総務部危機管理課長

岡田 康宏

福山市山手学区町内会連合会長/福山市山手学区自主防災協議会長 杉原 均

閉会挨拶

防災・減災研究センター長 土田 孝

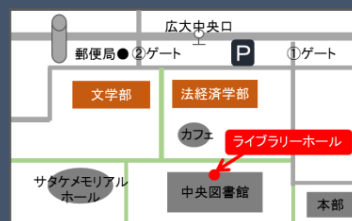
日時:9月30日(月)13時30分~17時

場所:広島大学東広島キャンパス

中央図書館ライブラリーホール

※お申し込みはセンターのサイトからお願いします。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hrrc>





令和元年 9 月 25 日

**広島大学タマチラボ「“ゲノム編集”で未来社会を拓く」の
第 2 回「ゲノム編集食品について考える」を開催します**

広島大学の研究者と社会を繋げる「広島大学タマチラボ」の新シリーズ「“ゲノム編集”で未来社会を拓く」第 2 回目のセミナーを開催します。

広島大学の強みであるゲノム編集技術に関する取組みを紹介し、ゲノム編集の可能性について全 4 回のセミナーでわかりやすく解説します。

参加は無料で、一般の方にもご参加いただけます。ゲノム編集技術の開発と産業利用などに興味を持つ皆様のご参加をお待ちしています。

記

【日 時】令和元年10月23日（水）18時00分～18時45分

【会 場】キャンパス・イノベーションセンター東京

リエゾンコーナー509

〒730-0053 東京都港区芝浦3-3-6

【テーマ】「ゲノム編集食品について考える」

【対 象】首都圏を中心とした企業・行政機関のご担当者、広島大学出身者、
ご関心のある一般の方々

【講 師】広島大学大学院統合生命科学研究科 堀内浩幸 教授

【申込方法】下記の内容をメールでご連絡いただくか、申込みフォームに必要な
事項をご入力ください。当日参加も受付けます。情報交換会参加ご
希望の方は事前にお申込ください。

1. ゲノム編集セミナーへの参加であること
2. 参加者氏名（ふりがな）
3. 連絡先（電話番号もしくはEメールアドレス）
4. 情報交換会参加の有無

【申込先】広島大学教育室コラボレーションオフィス

TEL：082-424-4676

E-mail： leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp

申込みフォーム： <https://forms.gle/NbToJhgHWbDMc1xv9>

【お問い合わせ先】

広島大学教育室コラボレーションオフィス

Email： leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp

“ゲノム編集”で 未来社会を拓く



ゲノム編集は、食糧問題、エネルギー問題や病気の治療など人類の問題を解決するまさに夢の技術です。

ゲノム編集技術の“今”と“未来”について、広島大学の研究者があなたの知りたいに答えます。

全4回のセミナーです
(1回のみの参加も可能)。

**参加費
無料**

会場

キャンパス・イノベーションセンター東京
リエゾンコーナー 509 (東京都港区芝浦 3-3-6) ※第4回のみ、2F 多目的室 1



第2回

日時 2019年**10月23日** **水** 18:00~18:45

講師 **堀内 浩幸** (広島大学大学院統合生命科学研究科 教授)

演題 **ゲノム編集食品について考える**



第3回

日時 2019年**12月5日** **木** 18:00~18:45

講師 **藤江 誠** (広島大学大学院統合生命科学研究科 准教授)

演題 **植物科学の発展を支えるゲノム編集技術の基礎とその展開**



第4回

日時 2020年**3月13日** **金** 18:00~18:45

講師 **宮本 達雄** (広島大学原爆放射線医科学研究所 准教授)

演題 **病気を「知る」、「治す」ためのゲノム編集技術**

※各回、講演後に情報交換会があります。(参加自由：会費 1,000 円)

お申し込み

申し込みフォーム (<https://forms.gle/NbToJhgHWbDMc1xv9>)
に必要事項をご入力ください。

<お問い合わせ先>

広島大学教育室コラボレーションオフィス **TEL** 082-424-4676 **MAIL** leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp

<共催>産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)



ゲノム編集先端人材育成プログラム
The Frontier Development Program for Genome Editing



令和元年 9 月 25 日

文部科学省教育関係共同利用拠点に「瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション（農場）」が再々認定されました

文部科学省が公募する令和元年度「教育関係共同利用拠点」に、広島大学大学院統合生命科学研究科附属「瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション（農場）」が認定されました。（令和 2 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日までの 5 年間）

「教育関係共同利用拠点」とは、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくため、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことを目的として、平成 21 年 9 月に創設された文部科学大臣の認定制度です。本学の「農場」は、平成 22 年度の初認定から継続して認定を受けています。

来年度以降も循環型酪農を基軸とした教育関係共同利用拠点として、我が国の社会が必要とする「食と農の現状に精通した人材」を、多様な大学と共同して効果的に教育しながら養成するとともに、実践教育を発展させて動物生産系「専門技術者」を養成することを目的とし、積極的に他大学の学生を受け入れて活動を行います。

■ 再々認定後の新たな取組

春～冬にかけて通年で実施する「農場の四季を通して生命のサイクルを体験するフィールド科学演習」を開講する。

従来の夏季集中型の演習に加え、通年で実施する本演習を開講し、時間軸の長い命の営み、農業・酪農、生産環境を体験することで教育効果を高める。

■ 本農場の概要

中国四国地域の中で酪農を中心とした教育を行える唯一の施設。広大な草地と多数の乳牛、羊、山羊、また完全自動で搾乳を行う搾乳ロボットを活用すると共に、他の施設（食品実験実習工場、精密実験圃場、家禽舎・家畜環境制御実験棟等）と連携し、酪農分野を中心に教育活動に取り組んでいる。

【お問い合わせ先】

生物学系支援室 清水 秀明

TEL：082-424-7904

E-mail：sei-bucho-sien@office.hiroshima-u.ac.jp



令和元年 9 月 25 日

**国立サン・マルコス大学および広島大学との共催フォーラム
を開催、広島型体育授業研究がペルーで全国展開**

2019 年 8 月 26 日及び 27 日、国立サン・マルコス大学および広島大学との共催フォーラム「“Estudio de clase de Educacion Fisica: Una experiencia exitosa con profesionales en Educación Física de Japon”：体育におけるレッスン・スタディ 日本の体育専門家を迎えた成功体験」が開催されました。

本イベントは、日本政府が推進する「スポーツ・フォー・トゥモロープログラム」の一貫であり、スポーツ庁／日本スポーツ振興センターから委託を受けた広島大学が主導する形で開催されました。

広島からは本学教育学研究科教授 齊藤一彦、本学附属三原小学校教諭 富岡宏健、さらに本学教育学研究科大学院生、東広島市教育委員会指導主事も参加し、講演や授業実演などを実施しました。

ペルー側からはサン・マルコス大学、エンリケ・グスマン・イ・バジェ国立教育大学の教員をはじめ、ペルー全県から体育科教育の代表者（体育スペシャリスト）、ペルー教育省の体育専門官など、計 600 人以上が参加しました。

今後、「広島型体育授業研究」が、ペルーで全国展開する運びとなりました。

【お問い合わせ先】

大学院教育学研究科健康スポーツ科学講座 教授
齊藤 一彦
TEL:082-424-7151
FAX:082-424-3478



UNIVERSIDAD NACIONAL MAYOR DE SAN MARCOS

(Universidad del Perú, DECANA DE AMÉRICA)

VICERRECTORADO ACADÉMICO

FACULTAD DE EDUCACIÓN

Escuela Profesional de Educación Física

Departamento Académico de Educación Física



Hiroshima University

CONFERENCIA INTERNACIONAL

"Estudio de clase en Educación Física"

Una experiencia exitosa con profesionales en
Educación Física de Japón



EXPOSITORES

- Kasuhiko SAITO
- Hirotaka TOMIOKA
- Yusuke MATSUMOTO
- Alexander GARAY
- Miki SEIDA
- Sakae HAKARIYA

AGO. 26 y 27, Hora: 8:30 am.

26 DE AGOSTO (AUDITORIO)

La clase de EF. en Japón (Dr. SAITO y Lic. María SOLÍS)

Fundamentación teórica sobre el Estudio de clase en EF. en aprendizajes de los estudiantes. (Dr. Edgar DAMIÁN y Mg. Alexander GARAY)

Repercusiones del estudio de clase de EF. en los aprendizajes (Prof. SEIDA)

Preguntas y respuestas (Prof. MATSUMOTO)

Observación de la clase:

1.- Ejercicios para el desarrollo corporal (Prof. MATSUMOTO)

2.- Baloncesto (Prof. TOMIOKA)

Reflexión de la clase

1.- Ejercicios para el desarrollo corporal (Prof. SEIDA)

2.- Baloncesto (Dr. SAITO)

27 DE AGOSTO (AUDITORIO)

Propuesta para la mejora del estudio de clase en EF. (Prof. SEIDA y Dr. SAITO)

Formalización de docentes a través del estudio de clase: el currículo de estudio de la Universidad de Hiroshima desde el punto de vista de un estudiante. (Expositores: Prof. MATSUMOTO y Dr. SAITO)

MESA REDONDA: Investigación cuantitativa, cualitativa y líneas de investigación en la Educación Física. Dr. Edgar DAMIÁN (UNMSM), Dr. Hernando DÍAZ (UNE)

Estudio de Clase en el Perú:

Lic. María SOLÍS (Especialista en Ed. Física de la UGEL 07)

Dr. Edgar DAMIÁN (Director del Departamento Acad. de Ed. Física de la UNMSM)

Dr. Hernando DÍAZ (Instituto de Investigación de la UNE)

Perspectivas: Lic. Álvaro GONZALEZ (Dirección de Ed. Física y Deportes, MINEDU)

ORGANIZACION:

Facultad de Educación-UNMSM

Departamento Académico de Educación Física-UNMSM

Dr. Edgar DAMIÁN Núñez (UNMSM)

Dr. Hernando DÍAZ Andía (UNE)

Lic. María Elena SOLÍS Gonzales (UGEL 07)

Lic. Álvaro GONZALEZ (MINEDU)

COORDINACIÓN:

Dr. Sandy Dorian ISLA Alcóser (UNAC)



Ingreso libre

**Dirigido a: Estudiantes,
Profesionales y Público en general**

**SPORT
FOR
TOMORROW**

LUGAR: AUDITORIO CIENCIAS ADMINISTRATIVAS y GIMNASIO (Ciudad Universitaria UNMSM)
/ Informes: 992040590 / Inscripción (minutos antes de iniciar el evento)